



# 歯科だより



## 歯と管楽器について

歯科といえばむし歯や歯周病の予防や治療がメインですが、その目的は審美性や口腔機能の維持、回復にあります。管楽器を演奏することも口の機能の一つに含めることができると考えられます。

口の中の構造では、歯の他にも、口周辺の筋肉群や舌、口蓋の深さなど関連する項目は数多くありますが、今回は咬み合せと歯並びに注目してみましょう。

特に金管楽器ではアンブシュア（管楽器の演奏者が、楽器を吹くときの口の形およびその機能）が咬合（上下の歯のかみ合わせ）や歯列（歯並び）の状態に強く影響されることが多いと思われます。

吹奏時の楽器の向きは、トランペットであれば、前歯部の咬合は上下方向に、歯列は左右方向に影響するでしょう。昔の教則本だと写真やイラスト付きで、正しい姿勢、楽器の構え方、吹き方などが解説してありましたが、今考えるとこのままの姿勢と楽器の角度で吹ける人は咬合も歯列も理想的な場合ではないでしょうか。

ただし、トランペットの上手な人が必ずしも理想的な咬合、歯列を備えているとも限りません。多くは多少のハンデを乗り越えて上達していると思われます。昔は著明なトランペッターが思い余って自分の前歯を削ったという逸話もありました。

サクソやクラリネットなどのシングルリード楽器では、上顎前歯がマウスピースに接触し、下顎前歯に下口唇を巻き込んで音を出します。そのため上顎前歯の歯列によっては楽器が安定しなかったり、下顎前歯で下口唇を傷つけたりするトラブルも見受けられます。また、必要以上に強く噛んだり、下顎の位置がずれ過ぎると顎関節に負担がかかり痛みなどの症状が出ることもあります。サクソの場合はアンブシュアに柔軟性があり、比較的唇に負担がかからなくなる奏法もあります。

楽器の音を発するにあたって、比較的咬合・歯列が影響無いのは、フルート類でしょう。ただし、フルートの音が口腔内で共鳴する場合、咬合・歯列がその響きに関与していることもあるかもしれませんが。

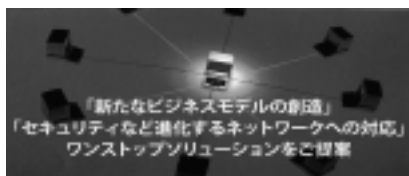
管楽器を演奏する上で壁にぶつかり上達がおぼつかない場合、何でも試したくなるものです。楽器を改造したり、マウスピースを何本も買ったり、削ったりしたことがある人もいます。

原因が咬合や歯列に起因することであれば、歯科で解決できることも有ります。すなわち、歯の矯正をしたり、アダプターを作ったり、歯に詰め物をして、咬合や歯列を楽器が吹きやすい状態にしてやるのです。

お悩みの演奏者がいらっしゃれば一緒に解決できるかもしれません。



お客様の課題解決のお手伝いを  
「誠心誠意」対応いたします。



FUJITSU パートナー

**扶桑電通株式会社**

■青森営業所

青森市長島二丁目13番1号  
TEL. 017-775-2031(代) FAX. 017-774-4720

■八戸営業所

八戸市三日町2(青銀明治安田生命ビル)  
TEL. 0178-44-1855 FAX. 0178-44-8494

《ホームページアドレス》

<http://www.fusodentsu.co.jp>